

# 研究だより



せらにし小学校研究部  
令和2年 3月 11日  
No.13

2月5日は、今年度最後の授業研究（第3学年 理科「じしゃくのふしぎ」）でした。振り返るとともに、来年度へ向けてについて確認したいと思います。

☆世羅町教育委員会 西谷指導主事より

- ・学習指導要領 系統を意識して授業づくりをしていくことが大事
- ・本時のポイント・・・くつつくものの共通点  
「金属だけくつつかないものがある」  
“材料”を子どもたちから出させることが大事だった。

「何でできているのか」

例) アルミ缶とスチール缶のちがい。  
はさみ（材質のちがうもの4種類）



同じような物（素材がちがう物）で比較させる。

- ・児童に任せてみる。
- ・自由に考えさせる。
- ・丁寧にしすぎない。

◎子どもが“何でだろう？”と思う場面を作ってやる。

- ・授業づくりで考えること  
単元のゴールに向けて、本時はどうか？  
本時のまとめは、指導要領に合っているか？  
本時の肝は？



☆授業評価表から

【成果】

- ・実験に進んで取組み、いきいきと活動していた。
- ・多くの道具を準備しておられ、子どもたちはたくさんの疑問の芽をもったと思う。

【今後へ向けて】

- ・子どもたちの思い・考えがしっかり出されたら、子どもたちがどんどん追究して深い学びになると思う。
- ・興味深い題材だったので、子ども自身で考えしっかり意見をもたせた上でクロストークに入ると良かった。
- ・結果と考察（まとめ）の区別がはっきりすればより分かりやすくなったと思う。

理科の授業研では、シミュレーションを一度しかできませんでした。ですが、田丸先生は学習指導案を何度も練り直しをされていました。児童に実態に合わせて、シミュレーションでの意見、授業者としての思い・考えを合わせて、練り直ししておられる姿から、授業づくりの在り方について学ばせていただきました。

☆今年度の授業研究からの学び、今後大事にしたいことをまとめます。

- 「せらにし小学校の授業改善ポイント」
- ①児童が授業のゴールイメージをもっています。
  - ②児童が、自分の考えをもち表現しようとします。
  - ③児童が、授業で学んだことを表現します。

教職員全員で考えたポイントです。これを意識した授業づくりを行いましたか？

・“考えるためのツール”の活用

- |         |                                 |
|---------|---------------------------------|
| ①ブロック   | 具体物で視覚的に                        |
| ②絵      | 絵に言葉や数を付け加える                    |
| ③○図     |                                 |
| ④テープ図   | ①～③をテープで表現                      |
| ⑤線分図    | 数量の関係を表す                        |
| ⑥数直線図   |                                 |
| ⑦関係図    | 数量間の関係を矢印や言葉で表す                 |
| ⑧4マス関係表 | 縦と横の関係が同じになるように書き、比例関係で成り立っている表 |

使う場面

- ①問題をイメージする場面
- ②数量の関係をつかむための場面
- ③説明するための場面

・“考えるためのツール”を用いて、自分の考えをもったり、“考えるためのツール”を用いて自分の考えを説明したりする児童を育てる。

・算数科における主体的な学び（学習指導要領 算数編P322）

「算数科では、児童自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見出したりするなどの『主体的な学び』を実現することが求められる。」

・見通しが、主体性を持続する上で大事。→共有する部分を吟味する。

- ・【見通し】
- |          |                |
|----------|----------------|
| 思考方法の見通し | 例) たてに見る, 横に見る |
| 表現方法の見通し | 例) 図・表を使う      |
| 結果の見通し   | 例) 40より大きくなりそう |

・「練り上げ」の方向性

異なる場面での活用について考察する。→数字が変わった時に使えるか？

現実の生活への活用について考察する。→日常で使えるか？

状況に適した見方・考え方を選択する。

・今日の学習について「何が分かったのか」「授業を通して何が成長したのか」「どんな力が付いたのか」「身近なことで言うと今日の学習は何か」「今までの学習と～が同じ」「新たな疑問」など、振り返りを充実させていくこと。

◎本校の「視覚化」「焦点化」「共有化」を次のように整理しています。

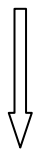
「視覚化」 見えないものを「見える化」し、児童のイメージをわきやすくさせる。  
例) ICTの活用, 場面絵, 図や表・グラフ等, 問題提示の工夫  
ヒントカード, 既習事項の掲示

「焦点化」 授業を「シンプル」にする。  
例) せらにし授業スタイル めあての確認, ゴールイメージをもたせる

「共有化」 互いの考えを伝え合ったり, 確認させたりする。  
「できる」児童には, 自分の意見を深めさせる。  
理解に不安がある児童には, 自分の意見に足りない部分を補わせる。  
例) キーワードの確認, ペア・グループトーク・集団での練り合い,  
活動の視点の確認, 友達の考えを言わせる  
電子黒板やまなボードの活用, まとめ, 振り返り

◎日頃の授業づくりで大切にしたいこと

・授業のねらい



どのように発問するか。  
児童に何を書かせるか。

本時のゴール

1時間の授業のねらいとゴールを設定し、ゴールに向かうために何を発問し、何を考えさせるのかを、わたしたち教師自身もっておくことは、授業を行う上で大事なことです。

◎本校の課題について

・小学校と中学校の課題は、共に、「複数ある資料などからの情報の整理や内容把握、また、それを関連づけて表現すること」です。



資料の読み取り等をどのように指導していくか。

例) 社会科では、複数のグラフ等がある。日頃の授業から、複数のグラフから読み取れることは何かを児童自身に考えさせていく。

◎「対話」の在り方

・教材との対話, 自己との対話, 他者との対話。

・授業者が意図をもって対話場面を仕組むこと, それを児童にも示すこと。

例) 自分の考えを整理するためのペアトーク。

互いの考えを交流することで深めるためのグループトーク。

・まず, 自分の考えを確実にもたせること。それは, 決して“正解”をもたせることではなく, 「自分はこう考えた。」「ここまで考えたけれど, この部分が分からない。」などの“考え”をもたせることであるべき。

- ・「教材との対話」「自己との対話」をするために、個への手立てを考えていく。
  - 個の実態・困り感に応じて、手立てを準備しておく。
  - ※実態把握，教材分析が重要。
  - めあてにそった手立てであるべき。
  - ※答えを求める手立てではなく，考えるための手立て。
  - ねらいが説明することであれば，説明させるための手立て。
- ・自力解決に時間をかける必要はない。集団での練り合いにしっかり時間をとっていくことが大事。

☆学力フォローアップが目指すもの

「手立てが全体のものになって，学力があがった。」ということが目的。

☆「主体的な学び」

表現力を例にしてみると・・・

他者の説明を自分なりに理解し，「図に置き換えると」「日常の場面に置き換えると」と説明できる。

他者に説明する時に分かりやすくしようとする。

自主性・・・与えられたものの中で自分でやっていく。

主体性・・・自分で選びながらゴールに向かっていく。

例) 手立てを自分から取りに行き，選ぶ。

“前に使ったあれがあると分かりやすい。”と選ぶ。

以上が今年度の授業研究での主な学びと来年度へ向けてです。いま一度，確認していただければと思います。



以前，参加した研究会の資料として，田中博史先生の資料を配布しました。その中に，次のような文章がありました。

「授業中に考えるのは，子どもだけじゃない。教師も連続的に子どもとの対話で考え続け，その場で臨機応変に対処の仕方を変更し，ねらいと，子どもの実態の距離感を測りながら，自らの予定を変えていく勇気を持つことが必要。だから本当は一通りの指導案では，子どもの状況に対応しきれない。研究授業の時だけ，準備を複数していたのでは対応力はない。日々の子どもの付き合い方で，それを磨くべし。予定外のことにとどれだけ挑めるか。これは確かに大変なことである。でも，教師以外の他の職業でプロと呼ばれる人はみんなやっています。」

わたしたちも学び続けていかなければいけませんね。今月中には，今年度の研究推進のまとめを配布します。他の先生方の授業のまとめをぜひ，読んで，来年の実践にいかしていきましょう。